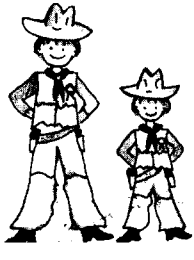
ママ、博士にならなくてもいいよ

アグネス・チャン

朝日新聞社

ママ、博士にならなくてもいいよ

アグネス・チャン



朝日新聞社

アグネス・チャン

1955年香港生まれ。72年来日、歌手デビュー。
78年トロント大学（社会児童心理学）卒業。
84年国際青年年記念平和論文募集で特別賞受賞。
85年北京でチャリティーコンサートの後、
エチオピアの飢餓地帯を取材。
92年スタンフォード大学教育学部博士課程修了。
現在、歌手、タレント、大学講師、エッセイスト
として活躍のかたわらボランティア活動に専念。

ママ、博士にならなくてもいいよ

1994年2月5日　第1刷発行

著　者　アグネス・チャン

発行人　及川武宣

印刷所　凸版印刷

製本所　青柳製本

発行所　朝日新聞社
〒104-11　東京都中央区築地5-3-2
電話03-3545-0131（代表）
編集・書籍第三編集室　販売・出版販売部
振替東京0-1730

©1994　AGNES CHAN ISBN4-02-258565-X　Printed in Japan
定価はカバーに表示してあります

ママ、博士にならなくてもいいよ

——この本を、私たち家族の留学を支えてくださったすべての友人に捧げます。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

はじめに

一九八九年九月から九二年六月まで、私は子供を連れて、アメリカのカリフォルニア州パロ・アルトにあるスタンフォード大学（教育学部・博士課程）に留学した。それまでいくつかの大学で教えていた異文化コミュニケーション論を活用して、担当教授と教育学の共同研究をしながら、勉強するのが目的だった。

話があったのは八八年十二月。スタンフォード大学は以前からとても憧れていた大学で、もし将来、博士号をとるようなことがあるならハーバードかスタンフォードと決めていた。大学で講師をするようになってから、いつかは学位をとりたいと思っていた。しかし、夢は夢であって、現実はそんなに甘くない。とても無理だと思い込み、実行に移せずに何年間かがすぎていた。

それだけに、思いがけずスタンフォード大学の女性教授、マイラ・ストローバさんから、

「留学して現代女性の持つさまざまな悩みや問題をもっと勉強してほしい」「アグネスの目で日本とアメリカの文化のちがいを見つめてほしい」という誘いがあったときは、ほんとうにうれしかった。

ただし、私は結婚しているし子供もいる。いくら自分の夢とはいえ、家族のことを考えずに飛び出すことはできない。ところが夫は、「スタンフォードなら行くべきだ。一生に一度しかやってこないチャンスかもしれないから」と励ましてくれた。私が講師をしている大学の教授たちも、「スタンフォードでの生活はきっと長い目で見て役立つでしょう」と賛成してくださった。迷っている私を見て、多くの友人も温かいアドバイスをしてくれた。

そんな話を聞いているうちに、自分の中の探究心が頭をもたげてきた。「思い切って行こう！」そう心を決めてまもなく、おなかに二人目の赤ちゃんができていることに気づいた。「やっぱりダメか……」私は留学を断念するつもりで、ストローバ教授に国際電話を入れた。

「女が子供を産むのは当たり前のこと。勉強しない理由を、子供のせいにしないでね。大

丈夫だから、私を信じていらっしゃい」電話の向こうで、怒っている教授の言葉を聞きながら、嬉しくて涙があふれた。そして、家族でアメリカへ。

めまぐるしい二年半だったが、この留学は私たち夫婦にとっても子供にとっても、すばらしい体験の連続だった。次男はアメリカで生まれた。長男はアメリカで幼稚園に通い始めた。サンフランシスコ大地震や湾岸戦争、オークランドの大火災など、いくつもの大きな出来事を親子ともども体験し、考えさせられたこともたくさんあった。いまとなってはそれらすべてが懐かしい。いま、子供たちとアルバムを整理していると、アメリカでのさまざまな出来事が昨日のことのようによみがえってくる。

この本は働きながら子育てをし、おまけに学生までやってしまった私の失敗談のオンパレードである。そして、私たち家族にとっては一生忘れられない大切なメモリーなのだ。

本書は、一九八九年十月五日から一年間、朝日新聞「マリオン」紙上に毎週連載されたものに、「週刊現代」「週刊明星」掲載の文章と、新たに書き下ろした文章を加えて編集しました。

ママ、博士にならなくてもいいよ　♡もくじ

はじめに

スタンフォード大学入学

やった！　やっとアメリカについた　16

アメリカでは甘えは許されないよ　18

車を買うのに、ひと苦労　20

大学の家族用宿舎で、またひと苦労　22

アーサーの三歳の誕生日　24

グリーン・ピザ　ブラック・アップル　26

アーサーが、ナースリーに通い始めた　28

アメリカのスーパーマーケット　30

パーティーでカラオケが大人気　32
恐ろしかったカリフォルニア大地震　34
大地震から一週間、夫が日本からもどった　36
出産予定日まであと二週間　38
カナダから母がやってきた　40
教授宅のハロウィン・パーティー　42
レポートが「Aプラス」という知らせが　44
十一月三日、次男アレックス誕生　46
片手にベビー、片手に原稿　48
アメリカのTVニュースで感じたこと　50
モンテソリー式デイ・ケア　52
街はもうクリスマス一色　54
アメリカの運転免許試験に合格した　56
さっそく事故を起こしてしまった　58
それでも車の運転は楽しい　60
80年代のトップテレビスター20　62
80年代、迫力のあった場面トップ20　64
サンフランシスコからメリークリスマス　66

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb

ユー・アー・ノット・アロン　68
帰国して感じる日米のちがい　70
97年には香港が中国に返還される　72
日本の物価の高さにビックリ　74
おしゃべりの習慣がぬけない　76
アメリカ人は楽しみ上手　78
夫が家事を手伝ってくれた　80

育ちゆく子供たち

ベビーと遊び始めたアーサー　84
パパと息子が庭にカマクラをつくった　86
こんどは誰が総理大臣？　88
二人目が生まれて、たくましくなった私　90
やった！　体重が四八キロまでもどった　92
次男のお食い初めで大騒ぎ　94
長男が日本の幼稚園に通い始めた　96
息子は少しずつ独立していく　98
海の向こうからきた手紙の山　100

あと十日でスタンフォードにもどる　102
三カ月ぶりのサンフランシスコでお花見　104
アーサー、高熱を出す　106
アーサートンの新しい家　108
母乳を与えるのは母親のためでもある　110
親子でサンフランシスコ探検　112
わが家の庭にタヌキが出た　114
アメリカで祝った次男の初節句　116
パパにほめられたアーサーの怪我　118
ベビーシッターが決まった　120
アーサーの英語が上達した　122
わが家でもリサイクルを始めた　124
六月は卒業シーズン、さびしい友との別れ　126
ゴルビーがスタンフォードにやってきた　128
アメリカにきてから自然が近くなった　130
ファッションが派手になった？　132
空の三人旅で日本に帰る　134
義母に子供をあずけてカンボジアへ　136

バンコクより東京へ電話　138
ホーチミン市で枯れ葉剤の影響を調べる　140
息子たちとカンボジアの話をした　142
兄弟をくらべちゃいけないよ　144
アーサーの知識欲が強まる　146
香港へ里帰りして母のベッドで眠った　148
アーサーは弟にやさしい　150
アーサー、海のキャンプへ行く　152
子供がいると忙しくても余裕が生まれる　154
子連れ学生にうれしい大学の制度　156
トランクをパンパンにして、またアメリカへ　158
アメリカ生活にも慣れて
子供のためにリーディング・クラブに入会　162
アメリカ生活も無事に回転し始めた　164
ショック！　友人が乳ガンの手術　166
パンプキンで提灯をつくった　168
サンホセからナパ・バレーへの旅　170

ストローバ教授のユダヤ式結婚式 172
アレックス、一歳のお誕生日 174
アーサーは、勉強が大好きになった 176
ホーム・パーティーの食べ物いろいろ 178
ナースリー・スクールの先生が辞めた 180
HAPPY NEW YEAR! 182
湾岸戦争が始まった 184
善悪の問題はむずかしい 186
ワールドニュースはアメリカ中心 188
キャンパス食堂の多彩なメニュー 190
戦争で街が様変わりした 192
アメリカの迷信と私のお守り 194
大学で働くオールド・レディたち 196
パパがいると毎日がパーティーだね 198
ナースリー・スクールで歌をうたった 200
アーサーは早くもバイリンガル 202
モントレーとカーメルへの小旅行 204
引退後に住みたい町NO・1のカーメル 206

アメリカの幼児教育の問題点 208
アーサーが幼稚園に入った 210
最近アメリカの困った電話事情 212
サービス先進国アメリカの珍商売 214
アメリカ人は誰もがボランティア 216

卒業へ試練の日々

子育てと勉強はやっぱり甘くない 220
子連れで図書館通いの日々 222
ハロウィンのコスチュームはカウボーイ 224
留学最後の感謝祭 226
博士論文と格闘する日々 228
ママ、博士にならなくてもいいよ 230
卒論の追い込みで、頭はもうパニック 232
面接試験で流した涙 234
卒業式は一つの闘いが終わった気分 236
アメリカに行って私たちは変わった 238
子育てに綱渡りの毎日 240

アメリカの自然が懐かしい　242
アーサー、インターナショナル学校入学　244
私はもう、これまでの私ではない　246
アメリカでできた友達は一生の宝　248
心が行っているところが故郷です　250
あとがき

イラスト／アグネス・チャン
装幀／廣瀬　郁＋小熊香緒里

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongb